

会報

大会報告

平成30年度中部哲学会・研究大会ならびに総会は、9月30日(日)南山大学を開催校として同大学R棟4階において開催される予定でしたが、台風接近により開催中止となりました。なお、予定されていた大会ならびに総会の議事は次のとおりです。

◇大会プログラム

○シンポジウム「身体、表現、イメージ」

(2019年2月23日に名古屋哲学会講演会との共催で、南山大学D棟DB1教室にて別日開催となった。)

- 1) レスリングする身体 青山学院大学・入不二基義
- 2) 未知の身体力：ダンスとの出会い 信州大学・北村明子
- 3) 触媒としてのカメラと開かれる身体：一と二のあいだを考える 名古屋文理大学・青山太郎

司会 九州国際大学・松井貴英

○個人研究発表

- 1) 人間にとって目指すべき生としての「最も神的な生」：『ピレボス』を通して 名古屋大学大学院・野村雄一
- 2) カリクレスとソクラテスの徳の至高性について 名古屋大学大学院・山田滯

- 3) トマス神学における「個の普遍性」 南山国際高等学校・中学校・谷口茂
- 4) メタファーにおけるアナロジーと類似性の機能について 名古屋大学大学院・春香
- 5) 『存在と時間』における不安と実存について 名古屋大学大学院・加藤皓士
- 6) ホワイトヘッドにおける「表象」の問題 関西外国語大学・平田一郎
- 7) 専門職教育におけるクリティカルシンキングの位置づけについて 関西福祉科学大学・久保田祐歌
- 8) 哲学と国体：西周の場合 加藤恒男
- 9) 中村正直と梁啓超、康有為：儒教的近代女性論の進歩的展開 名古屋大学大学院・鬼頭孝佳
- 10) 共同体と世間：マッキンタイアを日本で読む 一橋大学・橘田直樹
- 11) 公共性主義とは何か？：〈である〉哲学から〈する〉哲学へ 山口大学・小川仁志
- 12) 徳はどのような習慣によって身につくのか：メーヌ・ド・ピランとベルクソンの習慣論から 愛知県立大学・長谷川暁人
- 13) 芸術的創造における情動の役割：ダマシオとベルクソンの考察を通して 名古屋大学大学院・川里卓
- 14) 前期ハイデガーにおける論理学と真理 名古屋大学大学院・森永駿
- 15) アーティフィシャルな経験としての自然美経験？ 南山大学・高畑祐人

◇総会議事

1) 一般報告 この1年間の会員移動について、入会者7名、退会者1名、現在の会員数は171名であることが報告された。

2) 来年度の開催校について静岡大学を開催校とし、2019年9月28日(土)に同大学浜松キャンパスにて大会・総会が開催されることが提案され、承認された。

3) 委員の交代について 今年度、委員の交代は無し。

会員異動

◇平成30年度の新入会員の方々は次のとおりです。

○辻春香

○加藤皓士

○橘田直樹

○加藤弘典

○山根秀介

○伊藤俊

○森永駿

◇平成30年度の退会者は以下の方々です。

○美濃正

2018年度中部哲学会役員

(任期:2017年4月1日~2019年3月31日)

委員長:宮原勇(名古屋大学)

委員:秋元ひろと(三重 三重大学), 奥田太郎(愛知 南山大学), 篠原成彦(長野 信州大学), 柴田和宏(岐阜 岐阜大学), 永井龍

男(富山 富山大学), 三浦要(石川 金沢大学), 吉田寛(静岡 静岡大学)

総務委員:久木田水生(名古屋大学)

会計補佐:北野孝志(豊田工業高等専門学校)

出版委員:松井貴英(九州国際大学)

奥田太郎(南山大学)

会計監査:吉田健太郎(愛知教育大学)

藤本温(名古屋工業大学)

編集委員(アイウエオ順)

委員長:宮原勇

委員:秋元ひろと, 奥田太郎, 北野孝志, 久木田水生, 柴田和宏, 柴田和宏, 篠原成彦, 永井龍男, 松井貴英, 三浦要, 宮原勇, 吉田寛

中部哲学会年報 第51号

2020年9月30日発行

◎発行者 中部哲学会

(代表者 宮原勇)

◎編集(出版委員 松井貴英・奥田太郎)

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学文学部 中部哲学会事務局

cspjimu@gmail.com

◎郵便振替 00860-2-38397

◎印刷所 名古屋大学消費生活協同組合印刷部